

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成23年8月)

～急激な円高による悪影響が全体を押し下げ～

- 景気ウォッチャー調査・8月調査の近畿地域の結果(現状判断[方向性])は、4ヶ月ぶりの低下となった一方、先行き判断は2ヶ月連続の低下となった。全国も、現状、先行きともに前月からは低下している。
- 現状判断については、クリアランスセールを含む、夏物商材の動きが概ね好調となった一方、円高・株安の動きが消費マインドの低下につながったほか、地上デジタル放送への完全移行によるテレビの売上減などで、全体としては悪化する形となっている。
- 特に、戦後最高値を記録した円高による影響が大きくなっている。一般的に輸入面ではプラスにはたらくとされ、海外旅行などでは良い動きもみられたものの、所得不安などから消費マインドが大きく低下し、百貨店やスーパー、レストランなどでも悪影響が出ている。
- 一方、先行きについては、今冬も節電の動きが続くと予想されるなかで、いわゆる温感商材の好調に期待が集まっている。その一方、円高の長期化や復興財源としての増税懸念などが台頭、全体としては不透明感が高まる形となっている。

◎「円高」関連のコメント(現状判断のみ)

家計関連	変わらない	百貨店(売場主任) 都市型ホテル(支配人) 旅行代理店(広報担当)	・高級品や身の回り品、衣料、食料品といった百貨店のあらゆる分野で低迷している。特に、円高や株安のニュースで消費者の財布のひもが固くなっている。 ・食品の放射能汚染問題のほか、円高の進行も気がかりである。海外旅行や輸入品の販売は良くなっているが、国内景気が回復している感はない。 ・円高で海外旅行での買物や食事の割安感が高まっており、ロコミ情報の広がりや間際予約も増えている。ただし、円高が進み過ぎると仕事面に支障が出てくるため、旅行自体をやめる動きもみられる。
	やや悪	百貨店(店長) スーパー(店長)	・販売量は少し上向きつつあったが、円高や株安などによって動きが止まっている。 ・地上デジタル放送への完全移行に伴う特需や、前年のエコポイント制度といったプラス材料がないほか、円高や東日本大震災の復興の遅れ、食品の放射能汚染問題など、課題が山積している。
	悪	乗用車販売店(経営者) 一般レストラン(経営者)	・3か月ほど前には景気回復感も少し感じられたが、円高の進行や株価の低迷などで、状況は悪化している。 ・繁華街では夏休みで観光客が増える時期となるが、力不足で閉店する飲食店が増える一方、空き店舗をねらって出店する動きも目立っている。全体としては、円高や社会不安の高まりによって、サラリーマン層の来店が減少している。
企業動向関連	やや良 変わらない	経営コンサルタント 食料品製造業(経理担当) 電気機械器具製造業(経営者)	・中小小売業の顧客は、売上が前年を上回るようになってきている。中小製造業の顧客も、国内事業が中心の企業からの受注が多いため、円高の大きな影響も出ていない。 ・円高の影響で、輸出品に対する価格引下げ要求が強まっている。 ・メーカーは円高などで利益なき繁忙に陥っており、忙しい割に状況は良くない。また、仕事が減っている企業もあるなど、企業間の格差も大きくなっている。
	やや悪	化学工業(経営者)	・東日本大震災の復興関連の問い合わせなどで、雰囲気は明るくなっているが、まだ本格的な動きはみられない。その一方、円高の影響で物流全体の動きが悪化しており、売上は低調となっている。
		化学工業(管理担当)	・東日本大震災の復興に伴うインフラ関連の受注が遅れているほか、円高による打撃を受けている。
		電気機械器具製造業(経営者) その他非製造業【機械器具卸】(経営者)	・これまで海外取引は大きな変化もなく、恵まれた環境にあったが、急激な円高の進行が大きな負担になっている。 ・海外と取引している取引先が多いため、円高の影響で受注量が減っている。

